

# 自己評価票

## 【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 20年 11月 25日									
法人名	有限会社 シルバーケア									
代表者(理事長)名	鈴江 律子									
介護保険事業所番号	2	7	7	1	2	0	0	5	3	8
サービスの種類	○ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所									
	○ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホーム春日苑 田尻									
事業所所在地	大阪府泉南郡田尻町大字吉見384番地									
記入担当者職・氏名	(職) 管理者 (氏名) 和田 晴一郎									
連絡先電話番号	072-465-2011									

## 自己評価項目構成

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### V. サービスの成果に関する項目

## 【自己評価の実施方法】

- 運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください。
- その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。
- 優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域との交流を図ると共に利用者本位、人格尊重とした自立支援を基本とした理念を掲げている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念に基づき、常に利用者の立場にたって意向や考えを傾聴していく姿勢を持つようにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関を入った事務所前に理念を掲示し、来苑された方々に認識や理解を得るようにしている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩時等に会った近隣の人に挨拶を交わしながら気軽に立ち寄って頂けるよう働きかけているが、来て頂けていないのが現実である。</p>	○
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区会に加入し、地域の活動を把握し行事などに出来るだけ参加して交流できるよう努力する。特に秋祭りにおいては、多くの住民が櫓を曳いて苑に来てくれるので、利用者が手作りの食べ物を振る舞い、和気藹々とした雰囲気での元交流が図られている、また、地域の小学生から利用者は年賀状をいただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等 の暮らしに役立つことがないか話し合 い、取り組んでいる	地域の暮らしにおける役立ちに関しては難しい ことであるが、町の防災会議において避難場所と していくらか貢献できる提案をおこなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においては、改善の再認識と向上を目指 すことができると理解し、外部評価に関しては気 付かない点についての指摘により改善していくこ とにより質の向上に繋がっていくものと捉えてい る。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	サービス内容や評価などを報告し、取り組み状況 を提示しながら意見交換をおこなってサービスの 向上に活かしていくようにしている。		
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	地域ケア会議に参加し運営について報告し、話し 合いを行ったり、研修の案内をいただいたりして いる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	地域の人権協会に入会して定期的に行われる研修 や講演会に参加して学んだことを必要とされる人 に説明し活用していただけるよう心がけている。		
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	研修などで学ぶ機会を確保すると共に職員間で意 識しながら虐待のない施設を目指している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づいて説明を行い、理解していただいたことで承諾印をもらっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、いつでも自由に投函していただくようにしており、投函の困難な方には日常の会話や表情から読み取り、運営会議などにも取り上げて改善していき運営に反映させていくものとしている。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に日常生活状況や健康状態を報告すると共に職員の異動等があれば知らせ、定期的に発行する新聞に掲載したりしている。金銭出納帳を提示し領収書を渡して報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時において苦情機関の提示と苦情担当を説明し、家族会には苦情や意見を尋ねることによりサービスの向上に反映させていくようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議や全体会議の中で意見や提案を発言できる機会を設け、十分検討していくようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	見守りやケア内容の充実を図るために配置基準より多く職員を確保している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関しては一年ぐらいを目安とするが、いつでも顔を合わせることができるので不安が軽減でき、離職においては十分な引継ぎ期間を設けダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会をつくり、資格のない職員には資格の取得を勧め、資格者には更に上の資格取得を取ってもらう配慮をおこなっている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に同業者がないので、大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し研修などにより知識や技能を高め、定例会などで情報の会得と交流を図ることによりサービスの質の向上に活かしていく。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	いつでも意向が聞ける環境であり、有給休暇を随時取れる職員体制にも留意している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	仕事内容や勤務状況を把握していき、貢献度によって給与等に反映していくようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いを傾聴して受容的に捉えていくように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の不安や訴え、希望などを十分聞いて同調しながら良い方向性を考えていくようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に現状の状態において、サービスの優先性を見極め提案していくように心がけている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時、見学を受け付けており施設内外の環境等に納得された上で利用していただき、希望者には体験入居をすることにより判断していただく対応を実施している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営理念の一つである利用者の立場に常に身をおいて考えるようにして、コミュニケーションを十分とりながら共感することにより信頼関係を築き、機能や能力を活かせる役割を担っていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訴えや相談などにおいて傾聴し、受容的に捉えていく対応を心がけ、お互いに協調しながら支援していく方向性を打ち出している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には必ず近況報告を行い、本人、家族の意向を優先的に取り入れていくことにより良い関係の構築に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方には交流継続の場となる環境づくりをおこない、近くの馴染みの場所には時々出かけるようにしている。遠方により出かけるのが難しい場合は手紙を送ってくれたりしている方もおられる。また、思い出の場所や人について話を伺うようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の心境や性格および身体機能を把握しながら、中立的な立場に立って孤立することなく親交して思いやりの心を育んでいただけるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了においてもいつでも自由に来苑していただき、交流の継続と相談などにおいて対応していくものとしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で利用者の思いを把握していくと共に意向に添えるように努めていき、難しい課題であれば話し合いをしながら少しでも意に近づけていく努力を行う。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの話を聞いて情報収集を行い、ケアに活かしていけるように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の心身状態に応じて、日常生活においてどのようなケアが優先的かを把握しながら係わりを持っていくように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時など利用者、家族と話し合う機会を設け、一緒に聞けない場合は事前に家族に相談して返答をいただき、カンファレンスをおこなうことにより介護計画に反映していくようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを実施しているが、急な困難なケースにおいても本人、家族に意向を尋ねると共にカンファレンスをおこない適した計画変更を実施している。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に介護記録に記入は勿論のことで、気づきや状況変化なども記入すると共に必要と思われるケースはカンファレンスをおこないケアに反映していつている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、外出など個別に要望に応じて随時支援をおこなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ケア会議に参加しており、多くの関係機関の方がメンバーでありその中で相談や困難事例などを話し合うと共に随時、協力を得られる体制になっている。遠方への外出支援や苑内での物作りにボランティアの方に協力いただいている。	○	ボランティアの方が来ていただける機会を今以上に増やしていき利用者が楽しく有意義な時間を持ってより良い暮らしに貢献できるように支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居されている利用者は他のケアマネジャーと話をされる時は認定調査時のみである。介護状態によりたのサービスを希望される場合は事業者と密に連携をとり支援をしていくようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において地域包括支援センターの職員が参加していただいているので、随時支援や指導などのサポートをおこなってもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	事例として軽費老人ホーム、特別養護老人ホームなどがあり、行かれる先の関係者と十分な話し合いと情報交換をおこなっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	プライバシーの尊重ということでは理念にも掲げており、接遇（言葉使い・接する態度・表情）を大切にして個人情報に関しては規則遵守を徹底させている。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	インフォームド・コンセントの考えに基づき、理解能力に応じて表現方法や説明において工夫をしながら自己決定していただく配慮をおこなうようにしている。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	その日の利用者の心身状態を把握すると共に状態に応じてケア内容を共有して意向を重視しながら本人のペースで過ごせるような環境づくりをしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	自分では整容などが困難な方が大半であるが、その人らしい季節にあった衣服を一緒に選んだり、セッティングしてあげたりして身だしなみを整える支援をおこなっている。本人、家族が希望される美・理容師の訪問での髪のお洒落に満足されている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度選択メニュー実施により気分により選んで食べていただいている。食事関係全般に関しては、自立機能活かしてもらって一緒におこなうようにしている。また、品目、味付け、形態など疾病や嚥下などを考慮して提供している。外食により好きな物を食べていただくこともおこなっている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこを希望される利用者はおられない。おやつや飲み物などは糖分や塩分を控えなければならない人もおられるので提供には配慮している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し定期的に声かけと誘導をおこなうことにより失敗を軽減していくと共に状況に応じて日中は出来るだけおむつ外しを試みている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については曜日や開始時間は決めているが、個人の入浴時間などは配慮しており、入浴嫌いでタイミングが重要な方には随時入れる体制であり、順番にも考慮している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣の情報把握をケアに反映させていき、体調変化に応じて休息や睡眠ができる環境づくりを心がけている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で生活歴や自立機能を活かしていただける場面を作り出し、能力に応じて役割を担ってもらい楽しみながら過ごしていただく支援をおこなっている。また、気分転換として買物、外食、ドライブなども実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力に応じて支援をおこない、小額なお金を管理されている方もおられ、金銭管理を委ねられている方には必要時に手渡しすることもおこなっている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換と運動の為の散歩は勿論のこと、車で遠出をしたり買物や外食などの機会を設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行かれない所への外出においては勤務人数により難しいので、家族さんが進んでおこなってくれておりメンタル面での支援の協力を得ている。	○	希望される行き先の外出に関しては職員と一緒に 行ける体制を整えるようにし、家族の協力をも得 ながら取組んでいきたいと思っている。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用を希望された時は随時対応しており、手紙のやり取りをされている利用者もおられる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問される方どなたにおいても気を使われることなく気軽に来ていただけるよう家庭的な雰囲気づくりに努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の項目においては利用契約書の第6条に織り込んでおり、研修会などを通じて職員全員が認識、理解ができています。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のドアには鍵がなく、玄関については日中は施錠はおこなっていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、所在の把握を常時確認し、様子観察をおこなうと共に職員間で状況を共有して安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活の場に最低必要であろうと思われる物品は置いてあるが、危険と予想される状況になれば置く場所を変えたり、一時的に片付けたりして危険を回避している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスク管理の勉強会などをして職員の意識付けにより知識を身につけ、日頃から申し送りや口頭で職員同士が確認し合い事故防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しており万が一の時にはマニュアルに沿って対応することを指導して応急手当等の研修には参加しているが、定期的な訓練はできていない。	○	消防署などに訓練をおこなっていただく機会を設けるよう計画していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防火訓練をおこない消防士から指導をおこなっていただいている。防災に関しては町の防災会議に参加して地域の方々に協力を依頼しており、町全体でおこなう防災訓練にも参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時前にリスクについて説明し理解を得ており、入居後において状況変化に応じて起こりうるリスクについて説明をおこなうと共に対策を話し合いケアに反映していつている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の会話や表情にも気をくばり、バイタルチェックなどからも体調を把握していき、変化や異変がみられた場合は契約医に連絡し指導や受診の指示を得るようにしている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットに設置している全利用者の薬の説明書により把握しており、服薬変更などがあれば文書と口頭により確認し合い服薬による状態観察をして医師に報告していくようにしている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘への対応として適度な運動を促すと共に献立に便秘解消に良い物を組み込んだりしている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	2週に1度、歯科医により口腔ケアを実施しており、起床時と就寝時に歯磨きの実施と昼食後にお茶でのうがいをしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事において気分的な部分が左右される場合があるので1日の摂取量をチェック表で把握していき、水分量に関しては1日1300ccを目標とし随時摂取量を記入しチェックしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の研修に参加するなど再認識すると共に予防や対応マニュアルを作成し、それに則って予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具などは毎回消毒を徹底して実施し、食材は鮮度の良いものを選んで購入し使い切るようにしており、頻繁に冷蔵庫内の整理をおこなっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りは閉鎖的にならないようフェンスは網状であり、玄関先は花や小物を置くことにより親しみやすいイメージにし、夜間は誘導灯を設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居室には季節感を味わっていただく花を飾ったり、くつろぎのスペースと居室は二重のカーテンにより音や光にも配慮している。また、ホール、廊下においては天井を高くして天窓があり圧迫感を解消している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の和室にはソファ、ウッドデッキにはベンチや椅子を置き思い思いに過ごせる環境を整えており、玄関内には談話コーナーも作っている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使用されていた家具やベッド、布団、電化製品な どを使っていただくことにより安心感が芽生え、 生活感が継続し安心して過ごしていただいでい る。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	定期的窓を開けるなどの換気を実施し、外部と の気温差やホールと居室との気温差にも留意し、 冬季には加湿器を使用すなどの工夫をしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下やトイレ内には手すりを設置し、自立機能の 活用と安全性を重視し、建物内はバリアフリーに なっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱を来たす場所には工夫した目印や表示により 混乱を防止し、理解力のレベルにより声かけを随 時おこないながら不安を解消していくようにして いる。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	家庭菜園を活用していただいたり、共有のウッド デッキでは外気浴や食事をしたりして活用してい ただいている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)